シンコウカイ
親江会だより

No. 270号 2026年2月8日発行
発行：親江会（江戸川区原爆被害者の会）
事務局：〒134-0087
江戸川区清新町1-1-36-604　高比良方
電話＆FAX：03-5675-2354
郵便振込取扱票：00110-4-0058774　親江会

第21回江戸川平和コンサート

笑顔と歌声で平和を祈る

昨年11月30日(日)、タワーホール船堀小ホールにて、今回で21回目となる江戸川平和コンサートが開催されました。

プログラム第1部は詩人のアーサー・ビナードさんの語り、第二部はシンガーソングライターの上奥まいこさんと、ピアニストの伊藤心太郎さんによる歌とピアノ演奏、第三部は、葛西南高校の小西仁聖さんの平和へのメッセージ及び金曾木「太鼓と民舞の会」、ぴーすファクトリーとチキーラ栄子さんらによる合唱です。

アーサー・ビナードさんは、原爆展や戦争展にも出演してくださった、アメリカ生まれの詩人で翻訳家です。平和コンサートではご自身が創られた『ドームがたり』という、「もし、原爆ドームが人格を持ち、話ができたら」という、独創的な目線の原爆と平和の紙芝居を大きなスクリーンを使って語っていただきました。



アーサー・ビナードさんの紙芝居は独特の興味を惹き、平和と戦争を考えさせられます



会場に降りて盛り上げてくださったぴーすファクトリーとチキーラ栄子

第2部の歌手・上奥まいこさんは長崎出身の被爆三世で、「恋するフォーチュンクッキー」を作曲されたピアニストの伊藤心太郎さんとセッションを披露してくださいました。

曲目は、「長崎の鐘」や福山雅治の「クスノキ」、オリジナル曲の「路面電車は夢を乗せて」他6曲を披露。最後にフリ付きの「恋するフォーチュンクッキー」は大変盛り上がりました。

第三部は、高校生の小西仁聖さんが追悼式、戦争展に続き、平和へのメッセージを語ってくださいました。

そして、『南中ソーラン』の勇壮な演舞を披露してくださったのは、金曾木「太鼓と民舞の会」の皆さんで、親江会が行なっている平和学習に参加して



「どっこいしょー、どっこいしょー」と元気溢れる演舞の金曾木「太鼓と民舞の会」の皆さん





くださった生徒たちも参加しています。その熱量と練度の高さに圧倒されました。

そして、昨年の平和コンサートで歌とダンスが大好評だったぴーすファクトリーとチキーラ栄子さんが今年もやって来てくれました。曲目は「ヤングマン」。観客の皆さんも両手を上げてフリ真似して大いに盛り上がりました。最後に合唱団の皆さんと「青い空は」を合唱し閉会となりました。今回は大きな紙芝居や平和講演、歌にダンスと、趣向を凝らした演目の平和コンサートとなりました。


会場入り口の展示物に興味を持つ学生たちも

年末お見舞い訪問

親江会では毎年年末に原水協の方と共に会員のお見舞い訪問を行っています。今回は12月20日、訪問する役員を含め、8名の会員さんをお見舞いしました。ご協力いただいたのは、原水協の丸宗市さん、由利良子さん、前川昇さん、柿岡常子さん。親江会からは、山本宏、高比良毅、チキーラ栄子、平目紀久子、佐藤鈴子、石井乃婦子がお伺いしました。

◇　◇

会員と報告者

平目紀久子さん

親江会で役員を務められています。脚がお悪く、痛みを耐えて訪問を続けられました。ご苦労様です。（佐藤鈴子）


左より平目、大楠栄子さん、大楠武徳さん

◇　◇

大楠 武徳さん
大楠 榮子さん

ご夫婦ともにお元気で、訪問した際も快く出迎えてくださいました。ご主人は階段をゆっくりユックリと注意深く降りていらっしゃいました。

奥様はボランティア活動をされていたこともあり、「皆さまも高齢になられて大変なのにご苦労様です」と労ってくださいました。訪問者として嬉しいお言葉でした。（佐藤鈴子）

◇　◇

小迫じょう子さん

小迫さんは訪問者の私（石井乃


左から小迫さん、平目、石井、前川昇さん(原水協)、佐藤

感謝（敬称略、順不同）

○会費（2025年4月以前に東友会に地区会費として振り込まれたものです）

高階　昭子　　横山　　力
大川紀美子　　塩塚　清子
山内　紘一　　貫　　泰夫
半田　忠之　　加藤カズコ

○平和コンサート賛同金

江戸川職員労働組合
江戸川平和運動センター
寿光院
立正佼成会江戸川教会
泉福寺
原水爆禁止江戸川協議会
江戸川憲法を読む会
下町ユニオン江戸川支部
東京土建江戸川支部

○寄付

中島　礼子

○カンパ

平和コンサートご来場者の皆さま

婦子）の近所にお住まいで、いつもお元気で日頃から極力外出するよう心がけられています。親江会への入会は、会員であった私の母の強い勧めで入会されました。今は本当に感謝されています。（石井乃婦子）

◇　◇

今澤 蓉子さん

広島の三次で入市被爆し、被爆者の介護で大変な思いをされた方です。身体は健康ですが、医師の判断で外出不可となっているようです。ヘルパーさんが週2回訪問し、葛飾に住む息子さんご夫婦もたびたびのペースやって来てくれるそうです。

食事はパンや宅配のお弁当を利用しているそうですが、お風呂はひとりでは怖くて入れず、ヘルパーさんが来た時にお願いしています。毎日テレビを見るのが楽しみだそうです。（高比良　毅）

◇　◇

山本 宏さん

現親江会会長を務めておられます。同じく被爆者であった奥様を7年前に失いました。

広島で被爆し、6年前に尿道ガン手術を行い、腎臓をひとつ切除しました。膀胱ガンの手術は計4回におよび、治療に4年かかりました。その後も背中にもガンがみつかり、合計6回の手術を受けています。

さらに脊柱管狭窄症やガンの転移など、原爆が原因の病と戦いつつ、日々、核兵器廃絶のため尽力しておられます。（高比良　毅）

◇　◇

川端禮次郎さん

16歳のとき被爆の5日後に長崎に入り、入市被爆されました。頭痛など強い放射能障害はありましたが、それ以外は健康で、97歳の現在も病気はないそうです。

週に3回ゲートボールに通い、80歳になってから書道を始め、また、現在でも葛西のキリスト教会にお一人で通うほどお元気です。生活のフォローは長女の方がされています。（高比良　毅）

第61回 親江会総会のご案内

日時：令和8年4月19日（日）
12時30分開場 13時開始 16時閉会
場所：グリンパレス 2階 高砂、羽衣
議事：令和7年度活動報告
令和7年度決算報告
令和7年度会計監査報告
役員選出及び新役員紹介
令和8年度活動計画
令和8年度予算

◇東友会及び親江会の年会費をお納めください。東友会会費2000円と親江会会費2000円です。二世、継承会員（三世ら）及び参与会員は親江会会費1000円のみです（各1年分）。お弁当は出ません。
☆出席できない方は、総会決議を「議長一任」としたことと解釈いたします。ご了解ください。


左より高比良、山本会長、由利良子さん（原水協）、チキーラ


左から山本会長、高比良奥様、高比良、チキーラ


川端さんは現在97歳で親江会で4番目にご高齢です

第25回戦争展in江戸川

もう、地球から戦争をなくしたい



憲法第九条や沖縄戦に関する資料も多い





終戦から80年という節目の昨年、9月14日(日)、15日(月)とタワーホール船堀にて第25回戦争展が開催されました。戦争展は親江会を含めて約20もの団体が参加、協力して構成しているイベントです。

戦争展は大きく二つ、展示物とステージを利用したイベントに分けられます。展示物は、太平洋戦争における沖縄戦や東京大空襲、日中戦争の資料と、戦時中の教育や市民の暮らしに関する遺物、遺品など。壁に貼られた掲示物は、憲法第9条に関する資料や、日本が戦争へとたどった経緯、そして、親江会のヒロシマ、ナガサキの原爆に関する資料などです。

ホールの一番奥にあるイベントスペースでは、各団体の講演や映写会、トークショーなどが行われます。今回は元武蔵大学社会学部教授の永田浩三さんをお招きして、「地球から戦争と核兵器をなくしたい私たちはなにをすべきか」というテーマで講演していただきました。

親江会では、「平和をつなぐ次世代トーク」にて、追悼式にも登壇いただいた葛西南高校の小西仁聖さんからのメッセージや、落語家で被爆二世会員の古今亭菊太楼さんによる新作落語「母のお守り」を披露いたしました。

そして、親江会の掲示物で目を引いたのは、高比良さん制作の『もう一つのアンジェラス　希望のカテリの鐘』と題した資料です。長崎の被爆前、浦上天主堂には二つの鐘楼があり、そこには大小ひとつづつの鐘が吊り下げられていました。

浦上天主堂が被爆すると二つ



高比良さん制作の「もう一つのアンジェラス　希望のカテリの鐘」の資料。聞かされないとわからない事実がたくさん隠れている



の鐘楼と共に左右の鐘も瓦礫の中に埋もれていました。その後、右側の大鐘は無事掘り出されましたが、左塔にあった鐘は全壊していて、それ以来80年間、浦上の丘にはひとつの鐘の音だけが響いていました。永井隆の随筆や藤山一郎の歌『長崎の鐘』もこのアンジェラスの鐘がテーマとなっています。

アメリカの大学教授・ジェームズ・ノーラン・ジュニア氏は、「マンハッタン計画（原爆開発計画）」に参加していた祖父の遺品の中にあった手紙や写真でマンハッタン計画のことを知り、原爆関連の研究を重ねた末、２０２０年に著書を出版。２０２２年には２ヶ月間長崎純心大学の客員教授を務めました。

その翌年、長崎を再訪した際、被爆二世のカトリック信徒との交流で、失ったままのもう一つの鐘のこと知り、復元、贈呈することを提案したそうです。

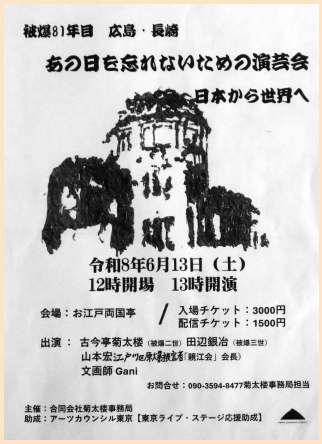
「この鐘を贈ることは、私たちの悲しみや後悔、和解や許しへの願いを表すものであり、同時に被爆者が長年にわたり受けた苦しみに対する敬意と尊敬を示すものです」

と語り、鐘は、『希望の聖カテリの鐘』と呼ばれることになりました。

鐘はオランダで鋳造され、アメリカミズーリ州セントルイスの工場で仕上げられたもので、直径約80センチ、高さ60センチ、重さ２２４キロの青銅製です。かつて、二つの塔に吊り下げられ、祝日には大小の鐘のハーモニーが響いていた浦上に、80年ぶりに同じ音色が戻りました。現在はミサの時間（土曜夜７時、日曜朝６時・７時30分・９時30分）と、８月９日11時２分の被爆時間に合わせて鳴らされています。

被爆81年目 広島、長崎
あの日を忘れないための演芸会 ～日本から世界へ～

令和８年　６月13日（土）
12時開場　13時開演
会場：お江戸両国亭
チケット：入場３０００円
配信１５００円
出演：古今亭菊太楼（被爆二世）、田辺銀次（被爆三世）
山本 宏　江戸川区原爆被害者の会「親江会」会長
Ｇａｎｉ 文画師（イラスト）
※詳細は次号でお知らせします




古今亭菊太楼さんの落語「母のお守り」は、笑いと涙が溢れる新作です


多くの来場者に原爆関連の資料をご覧になっていただきました





新年の集い 笑顔あふれる新年の宴


今回の出席は47名。カメラの画角もギリギリでした

穏やかな日差しの1月18日（日）、グリーンパレス高砂、羽衣にて2026年の新年の集いが開催されました。

今回は被爆一世9名、二世5名、三世1名及び参与会員13名、そして19名の支援者様の計47名の皆さんがご出席の中、賑やかに執り行われました。

山本会長は冒頭の挨拶で核兵器禁止条約に触れ、未だ条約に批准しない日本政府に深い無念の意を語られ、批准を求める署名とその活動をお願いしました。そして、年々減っていく被爆者を憂い、原爆被害の実相伝承と、江戸川区に祀られている原爆犠牲者慰霊碑を三世、四世の世代にも伝え守っていくことへの協力を呼びかけました。また、親江会の主な活動のひとつである平和学習は、平和を「知識」ではなく「自分事」と子どもたちに感じてもらうための大切な取り組みだと語られました。

公明党・関根まみ子幹事長の乾杯のご発声のあと、お弁当とお酒を楽しみながらの歓談タイムに。初めてお会いする方、久しぶりにお会いする方々など、各テーブルともに会話に花が咲いていました。

ご来賓の皆さまにご挨拶をいただいた後、例年は出席者が順々に自己紹介をしていましたが、今回は司会で会員の知識の広い高比良さんが、おひとりづつ紹介してくださいました。飄々としつつもコミカルで軽妙な紹介に、大きな笑いが生まれていました。

第二部のアトラクションでは、被爆二世でプロ歌手のチキーラ・榮子さんによるアメリカンオールディーズナンバーの歌唱が披露されました。1960年代のなつかしいアメリカンポップスに、立ち上がってダンスを始める女性もいらして、会場に花が咲いた瞬間となりました。

つづいて、歌謡教室を持つ被爆二世の石井乃婦子さんと生徒さんらによる歌謡曲の合唱は和やかなひとときが楽しめました。その後、「青い空は」と「原爆を許すまじ」を全員で合唱、皆さまのご健康をお祈りする一本締めでお開きとなりました。来年もまた笑顔でお会いしましょう。

区議会で親江会の活動が

令和7年第4回江戸川区議会定例会の本会議の斉藤猛江戸川区長の所信表明演説にて、親江会の活動が紹介されました。

斉藤区長は、区の活動として戦時中の資料収集を行う事業を始めることに触れ、その中で、親江会の平和学習に参加した子どもたちの感想を紹介し、「子どもたちが平和について真剣に考え、自分の言葉で語ってくれることは、何よりも心強いこと」と語られました。親江会の地道な活動が公に認められ広まっているという嬉しい報告でした。

葛西まつり

10月19日(日)、滝野公園にて第50回葛西祭りが行われ、親江会は折り鶴コーナーの設置と水あめ販売を行いました。

空は朝からあいにくの曇り空で、午後からはときおりパラパラと小雨が降ってきましたが、祭りには多くの人々が訪れ、会場は例年どおりの大賑わいとなりました。

水あめコーナーは、応援にかけつけてくれた小池さんの教え子の小中学生が看板をかかげたり、水あめを練るパフォーマンスなどでお客さんを呼び込み、子どもからおとなまで行列ができました。物珍しそうにあめをみつめる子供たちの嬉しそうな顔が印象的でした。



応援の生徒たちのおかげで例年以上に行列ができる水あめ屋となった

物価の値上げは水あめも同様で、今までは50円でしたが、今年は多めに盛って100円に実質値上げしましたが、例年以上に売り上げが伸び、一斗缶3缶が完売となりました。また、折り鶴コーナーでもたくさんの鶴を折っていただきました。ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。お疲れ様でした。

署名にご協力を!

2月22日(日)新小岩駅前にて、未だ『核兵器禁止条約』に批准しない日本政府に対し、その批准を求める署名を行います。署名と活動にご協力をお願いいたします。

『核兵器禁止条約』は核兵器の全廃に向け、その開発、生産、占有、委譲、使用、自国内配置の許可を全面的に禁止とする国際条約です。現在、世界の99の国と地域が批准もしくは署名しています。しかし唯一、被爆国であり当事国の日本はまだ批准していません。政府により多くの署名を提出して一刻も早い批准を求めましょう。

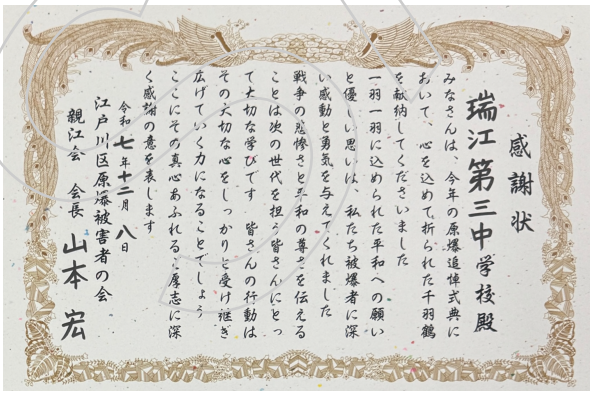
感謝状

広島の平和公園にある『原爆の子の像』には、毎年、学校や団体からたくさんの折り鶴(千羽鶴)が献納されています。その折り鶴は時間が経つに従って色褪せたり、雨風にさらされて汚れてしまいます。

そうなった折り鶴の一部を広島の製紙会社が引き取り、名刺や本に再生してふたたびみなさんの手元に戻っているのをご存知でしょうか。

昨年、その会社から親江会に再生紙で表彰状を作ってはどうかというご提案をいただきました。そこで、親江会に折り鶴を献納していただいた学校や団体に、再生紙を使用した感謝状を贈ろうということになりました。

ありがたいことに表彰状は格安料金で作っていただけるということで、早速、折り鶴を献納いただいた鹿骨東小学校、瑞江第三中学校に贈ったところ、たいへん喜んでいただけました。今後は、平和学習を受けていただいた学校、親江会の活動に貢献していただいた方々に贈ることも検討しています。みなさんのお目に触れることもあるかもしれませんね。


感謝状

瑞江第三中学校殿

みなさんは、今年の原爆追悼式典において、心を込めて折られた千羽鶴を献納してくださいました

一羽一羽に込められた平和への願いと優しい思いは、私たち被爆者に深い感動と勇気を与えてくれました

戦争の悲惨さと平和の尊さを伝えることは次の世代を担う皆さんにとって大切な学びです 皆さんの行動はその大切な心をしっかりと受け継ぎ広げていく力になることでしょう

ここにその真心あふれるご厚志に深く感謝の意を表します

令和七年十二月八日

江戸川区原爆被害者の会
親江会 会長 山本 宏

表彰状の紙には細かく裁断されたカラフルな折り紙がちりばめられている

シリーズ『鳩になって』アーカイブ1

いまなお、語れないことが

銀林美恵子（広島被爆）

二、三日前、大学生の息子が足が痛いといって病院に行った。「きっと、なんでもないわよ」といいながら、内心私はいいようのない不安を覚えた。

「放射能のせいでは？」言葉にならない不安が胸の中に広がる。そうでなければ良いが、と祈りたい気持ちになる。幸い、息子は翌日は元気にテニスをやっていた。

私が被爆したのは十七歳のときだ。その年、広島女子高等師範学校に入学した私は、和歌山の実家を離れ、寮に入った。戦時中のことで入学式がおくれ、七月二十日に開校されたばかりであった。

各地から集まった生徒たちは、戦時中の暗い時代ではあったが、乙女らしい夢を胸に抱いて勉学に励んでいた。そのささやかな幸せは二週間ほどで終わった。

朝礼を終え、二階の教室に集まったとき、ピカッと明るい光が窓からさし込み、次の瞬間、私は深いところへひきずり込まれるのを感じた。「ああ、これで死ぬんだな」と、思いながら郷里の母のことを考えた。

気がつくと、二階がくずれ落ちて私たちは建物の下じきになっていた。血みどろになった先生に助けられて私は必死の思いではい出した。女高師の友だちらしい少女たちが同じ方向に歩いていたが、だれがだれか見分けがつかない。顔にやけどをおった人、血だらけになった人、衣服がビリビリにやぶけた人。私も片目と片ほおがはれ、足にもけがをしており、とうとう歩けなくなってしまった。同級の長谷川さんは、背中から血をふき出していたが、歩けなくなった私にずっとついて励ましてくれた。

数年後、私は結婚し二児をもうけたが、私の心の中の不安が消えたことはない。子どもが熱を出せば不安になり、足が痛いと言えば心がふるえる。

子どもたちには私の被爆体験を話してきたが、「あなたたちの体にも影響があるかもしれない」とは、いまでもいうことができない。私が一番おそれていることを、私は口に出していう勇気がない。

命の恩人の長谷川さんは、広島のことで結婚話が破談になり、以来独身でとおしている。私の中でも長谷川さんの中でも、戦争はまだ終わっていない。戦争の傷あとが生々しく残って、ひよっとしたはずみに、その傷あとが口をあけそうになる。

私はいま、高校で数学を教えているが、たびたび生徒たちに広島のことを話す。私たちはだまされて戦争に突入していった。子どもたちには〝だまされない人間〟になってもらいたいと思うから、私は話さずにはいられないのだ。子どもたちが平和な時代を迎えるためにも私は被爆や戦争の体験を伝えていかなければと思っている。

（「鳩になって」第1集より。紙幅に合わせて編集しました）



銀林美恵子元会長
（写真は2010年追悼式より）

◆編集後記◆

一昨年、日本被団協がノーベル平和賞を受賞して以来、各所からその孫団体にあたる親江会へのアプローチも増えてきました。さらに、昨年開催した原爆展や『鳩になって　第6集』の出版など、関心や問い合わせが急増していることを踏まえ、遅まきながら親江会のホームページを立ち上げました。内容は、親江会の活動やイベント情報が中心です。連絡用のメールもありますので、「江戸川区親江会」で検索してみてください。